

<目的>厚生省による寝たきり老人の定義は、“65歳以上の者で、6ヵ月以上の寝たきりの状態(昼間12時間の中2/3以上臥床)にある者、又は、寝たきりの状態が6ヵ月以上続くことが予想される者をいう”とあるが、寝たきりの状態は様々なものが考えられる。本研究は、寝たきりの状態を体性運動機能面より観察することを目的としたもので、本研究で得た知見を、寝たきり老人の寝具を検討する際の資料としたいと考えた。

<方法>【被験者】特別養護老人ホーム入居者男女各3名計6名。年齢;73~96歳 【測定日】1987.7.21~8.2 【測定時間】日中 9:30~16:00 夜間 22:00~8:00 【測定場所】各人の居室 【測定方法】体動測定装置を使用し、連続2日間の体動を記録した。尚、介護による体動は、被験者の体動とみなした。

<結果>1.被験者の床ずれ予測スコアは、1.65~14.38となり、基準値(0.73)より高い範囲にあった。しかし、いずれの老人にも、床ずれの発生は認められなかった。2.1時間あたりの体動数は、日中6.5回夜間3.9回、平均静止時間は、日中13.5分夜間28.5分、最大静止時間は、日中51.6分夜間131.0分となった。3.日中および夜間の相関は、平均静止時間について有意性が認められたが($r=0.587$ 、 $p<0.05$)、1時間あたりの体動数および最大静止時間については有意性は認められなかった。